

ふるさと  
栃木の魅力

# 次代の農業を担う

～栃木県農業大学校生のチャレンジ～



シクラメンの世話をする  
鈴木さん



シクラメンを通して栃木県の魅力を語る鈴木さん

肥よくな土地に恵まれ、イチゴ、かんぴょう、二条大麦、ニラ、こんにやくいも、米、花など、多くの農作物が生産される栃木県。質、量ともに他県には負けない農業を維持しようと、栃木県農業大学校に集う学生たちは、日々、勉強や研究に励んでいます。

今回、連載企画「次代の農業を担う」栃木県農業大学校生のチャレンジ」より、60号発行を記念して、園芸経営学科・花き専攻の鈴木結子さんに、将来の夢や栃木県の魅力を語っていただきました。

私は、将来花きにかかわる仕事に就きたいという思いから栃木県農業大学校に入学しました。

入学当初、農業高校出身でない私にとって農大での授業は初めて見聞きすることばかりであり、最

初は戸惑いの連続でした。

私の家は兼業農家なので、毎年稲作の手伝いや自家用野菜の播種など作業はしてきましたが、農大に入学し花き専攻で実習や講義を受けている中、自分の知識や技術のなさを認識できたことは大きな収穫です。

実習では天候や生育によって花の管理が日々変わることや勉強し、栽培の難しさを実感しています。

水のかけ方も花きの種類によって、水が少ない方がよいものと多く与えなければならぬもの、光を好

むものと好まないものなど、原地の環境により様々な特徴があり、たいへん興味深いです。

私はシクラメンを家で育てていたこともあり、シクラメンを卒業で扱うことにしました。入学前自分で育てていた時は、栽培の仕方を調べて自分なりに管理していましたが、今年農大の実習や各論などでより専門的に学んでいます。実習で葉組みの基本を勉強し葉組をすればするほど締まったよいシクラメンができることがわかりました。以前に比べ少しずつです

栃木県農業大学校  
園芸経営学科 花き専攻

鈴木 結子さん



たくさん並んだシクラメン



栃木県農業大学の校舎

が良く育てることができるようになってきました。

昨年、毎年実施している農大祭がコロナ禍の影響で開催できなかったため、替わりとして、花き専攻として地域限定のシクラメン販売会を行いました。

実際に消費者にシクラメンを販売するのは初めてだったので、消費者の方が喜んで購入してくれるシクラメンはどういうものかを感じることで、消費者の求めるものを栽培することの大変さを感じることができました。その中で、花色や大きさも消費者によって好みがあることが分かり、消費者に選ばれるシクラメンができるようにがんばろうと思いました。

12月にはシクラメンの播種を行います。かわいい球根ができていきます。卒論では、培養土の配合割合をかえてシクラメンの品質との関係を調査研究する予定です。また、12月からシクラメンを交配して採種の方法も学んでおり、受精した種が大きく膨らんできています。

本年度は先進農家での研修が中止となってしまいましたが、県内のシクラメンやクリスマスローズ、ファレノプシスの農家を見学することができ、たくさんさんの刺激を受けました。今後機会があれば、先進農家でシクラメンや花の栽培管理を実習したいと考えています。

また、年末には、地域の高齢者施設に農大のシクラメンを贈呈させていただきました。施設の方にたいへん喜んでもらったことがとてもうれしかったです。コロナ対応でお忙しい施設の方や入居者の方が花をみて心を和ませていただけたらと思うと、花の手入れをしてきて本当によかったなと思いました。

私たちが住んでいる栃木県は、自然に恵まれ冬場の日照が多く年間を通して花き栽培がしやすく、首都圏や宇都宮市などの大消費地に近いなど環境に恵まれていると思います。栃木県のシクラメンは品質が高く各種品評会において、毎年上位入賞をしています。

これまで高品質で日持ちの良い花き栽培に取り組んできた農家の皆さんの技術と知識を活かしながら、消費者の要望にあった花を作ることで、栃木県の花きの生産が増え、栃木の花の魅力が高まりイメージアップにもつながっていくのではないかと思います。

私は将来、花き栽培にかかわる仕事に就きたいと考えておりますが、農業の沢山の課題や花業界の厳しさも理解しながら、自分にかできない花きの仕事にかかわっていかないと考えています。



シクラメン販売会時に仲間と記念撮影